

書評

[評者]
吉川徳茂
和歌山県立医科大学
特別顧問・名誉教授
同 附属病院臨床研究セン
ター長



初期研修医・総合診療医のための **小児科ファーストタッチ** 岡本光宏 著

●B6変形 頁428 2019年3月
定価：本体4,000円＋税
[ISBN978-4-8407-5176-6]じほう刊

岡本光宏君が小児科専門医になった直後の4年前、私は彼を2年間指導した。彼の父も小児科医で、30年前に腎生検の指導をした。

私は岡本君にリサーチマインドを教えた。当時の彼はまだ論文らしい論文を書いたことがない医師だった。しかし日常臨床に疑問を感じていないわけではなく、多くのクリニカルクエストをもっていた。私はそれをリサーチクエストにもっていく方法を指導した。また、実際に彼とともに論文を書き、臨床研究の面白さを彼に伝えた。その後、岡本君は兵庫県立柏原病院に移動した。臨床と研究に打ち込んでいるのだらうと思っていたが、久々に連絡がきたと思えば書評の依頼である。正直、驚いた。

さて肝心の本だが、まさに岡本君らしさを感じさせ

る内容だ。彼は人一倍働き、かつ勉強熱心だった。ネルソン小児科学を担ぎながら、外来からベッドサイドまで患者を求めて走り回っていた彼の姿が思い出される。本書の内容はネルソン小児科学やコクランレビュー、国内外のガイドラインの記載に加え、彼の臨床経験がうまくミックスされ、読みやすい内容となっている。

小児科医とは子どもの総合医である。本書の内容は呼吸器、消化器、神経、腎、アレルギーなどのさまざまな臓器別内科疾患に加え、熱傷や異物誤飲、頭部打撲などの子どもに多い外因疾患までも含む。この多岐にわたる疾患すべてを1人の小児科医が書いたという事実は、まさに小児科医が子どもの総合医であることを証明しているといえるだろう。